

先進農業技術の導入促進（日・アフリカ農業イノベーションセンター） “Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology : AFICAT”

資料 アー 3 （ 2 ）

日本

（1）民間連携日本研修

- ✓ 政府幹部・ディーラー・農民組織代表等の日本招へい

拠点国（数か国を選定）

（2）日・アフリカイノベーションセンター

Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology : AFICAT

- ✓ 先進的な技術や**農業機械化**のための、展示・実証・人材育成・イノベーションの拠点を設置し、日アフリカの官民で推進
- ✓ 活動内容：
 - ① **広域政策アドバイザー派遣**（各国に政策提言・メーカーとの調整）
 - ② 民間企業との協力による**製品等の展示・実証**（デモ地区農民への貸出）
 - ③ 機械化のためのデモ地区**圃場整備**（農道、均平化：～10ha）
 - ④ 収穫後処理施設～輸送の近代化推進（地元企業への貸出）
 - ⑤ **イノベーションラボ化**（メーカー・研究機関の試験の場の提供）
 - ⑥ **トータルコスト検証**・対外発信
 - ⑦ アフリカ諸国に対する**人材育成拠点**（政策、メンテナンス）



重点国

（3）民間連携展示（既存プロジェクトに活動追加）

- ✓ JICAプロジェクトサイト（試験場又は、優良地区）に日本製品の実機展示・活用（購入・メンテナンスは民間企業と要相談）
- ✓ 農業祭などでプレイアアップ、ディーラー研修の場

（4）農村金融スキーム拡充

現行調査の結果① AFICAT活動を推進するために必要な機能（案）

「日・アフリカ農業イノベーションセンター」

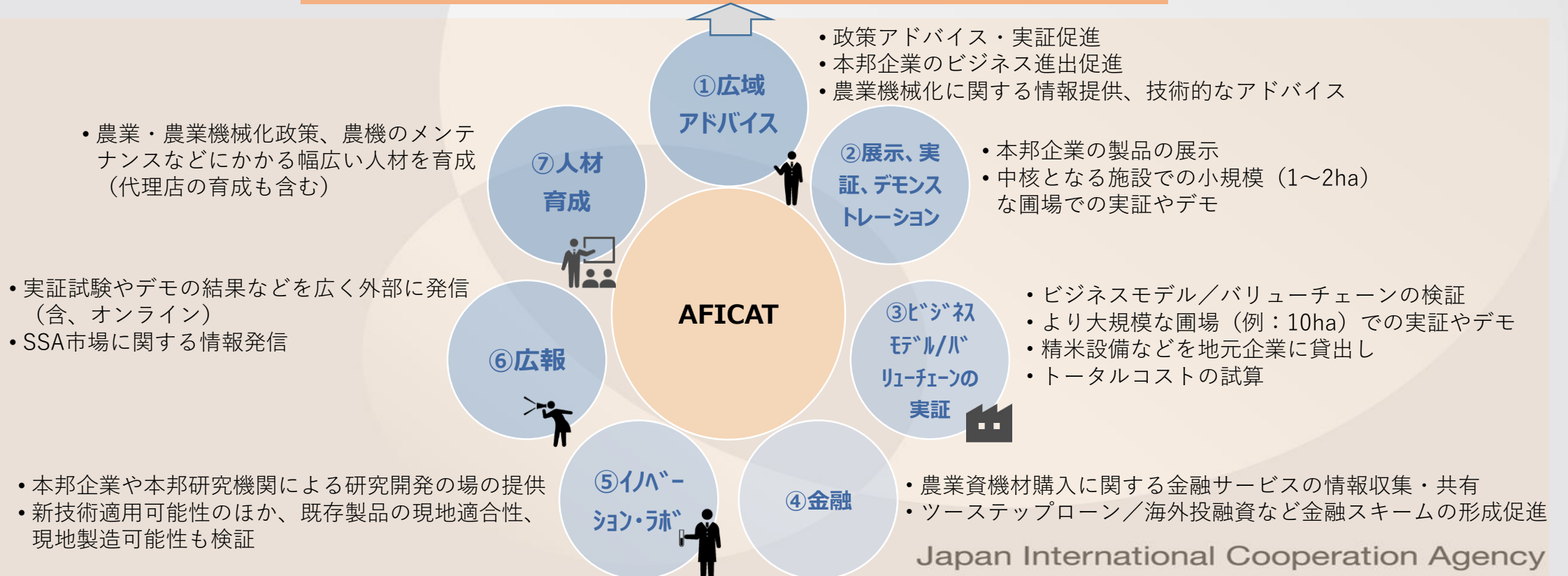
(AFICAT : Africa Field Innovation Center for Agricultural Technology)

※既存の施設・組織に機能を付加する。

※コメ関連農機を主な対象とするが、AFICATは農業資材や、コメ以外の農産物も幅広くカバーする。

SSAにおける農業生産性向上（農業機械化を含む）、農産品の品質向上、農民のエンパワメント

本邦企業のSSA進出の足掛かり



現行調査の結果② 進出に向けて特に高い関心が示された国

- ✓ タンザニア
- ✓ コートジボワール
- ✓ ナイジェリア
- ✓ ガーナ
- ✓ ケニア

今後の取組① AFICAT機能の試行（パイロット事業の実施）

- ✓ 展示、実証、デモンストレーションの支援
各国で本邦企業の農機を実際に運用し、製品の性能・現地適用性を評価
- ✓ ビジネスモデル/バリューチェーンの実証
評価した本邦企業の農機の市場での優位性や経済性を検証
- ✓ 広域アドバイス
AFICAT事務局を設置し、パイロット事業の結果や現地の関連情報を関係者に提供する窓口とする
- ✓ 広報活動
現地・本邦関係者に対する情報発信

今後の取組② 想定する各国活動地と連携機関

	国	主な活動地及び連携機関案
1	タンザニア	キリマンジャロ農業研修センター（KATC）および隣接するローアモシ灌漑地区。連携機関はKATCを想定。
2	ガーナ	首都アクラから100km（車で2 - 3時間）程度離れたポン灌漑地区（KIS）を中心。連携機関はKISを想定。
3	コートジボワール	JICAで実施中の技術協力プロジェクト国産米振興プロジェクトフェーズ2（PRORIL2）と連携し、ヤムスクロを中心。連携機関はADERIZを想定。
4	ナイジェリア	首都直轄区（FCT）、ナサラワ州を中心。連携機関はFCT及びナサラワ州普及局を想定。

※ケニアは、2022年3月に専門家派遣を先行し、上記4か国の進捗状況を見て活動地等を検討する

当面のスケジュール

2022年2月

4か国を対象にしたパイロット事業の準備開始

2022年3月

ケニアへの専門家派遣

2022年4月

現地でのパイロット事業スタート（予定）

※パイロット事業は2024年3月まで継続予定